

受講生満足度調査(2021年度)の集計結果について

調查活動WG長 青木 宏光

<はじめに>

2021年度前期および後期に実施しました受講生満足度調査の結果についてご報告いたします。2020年度は新型コロナウィルス感染症拡大 防止策として、Course Power を用いてアンケートを実施いたしましたが、集計結果を教員自らがダウンロードし、FD 委員会(教務課)に ご提出頂く形になり、不適切ではないかとのご意見を頂戴しました。そこで、2021年度は事務職員だけで集計作業が行える Microsoft Forms でアンケートを実施いたしました。また、焼廣 益秀 学長より調査対象科目を全科目に拡大するよう指示があり、複数教員が関与する授業で もアンケートを実施できるよう、5桁の授業コードに2桁の教員コードを事前に申請して頂きました。学生には、教員から提示された「7桁 のコード」と受講している「授業名」を入力した後に、各質問項目に回答してもらい、事務職員は7桁のコードと授業名を元に、アンケート 結果を授業担当者毎に分類してお届けする方式としました。

実際にアンケートを実施してみると、想定外の事案が頻発しました。授業コードの入力ミスは想定しており、その場合、授業名から授業コー ドを修正する予定にしておりましたが、授業コードで入力ミスをしてしまう学生は、授業名の入力も不正確なことが多く、中には授業コード の単純な入力ミスとは考えられないような授業コードと授業名の組合せもあったため、授業名を頼りに修正することが出来ない場合がござい ました。また、教員側のコード伝達ミスもございました。そのため、学生が入力した間違っているかもしれない授業コードからやむを得ず授 業名と授業担当者を割り当てた場合もあり、身に覚えのない自由記述が記載されたアンケート結果が届いた、という経験をされた先生方もい らっしゃることと思います。ご不快な思いをさせてしまい、申し訳ございませんでした。この場をお借りしてお詫びいたします。ただ、上述 のような事情があったことをご賢察頂ければ幸いです。

<質問項目>

2019年度、それまで授業区分(講義・演習・実験実習)毎に分かれていたアンケートを1つにまとめて整理しました。この際、学生のパフォー マンス(知識・技能・態度)にどれだけ良い変化を及ぼしたのか、すなわち教育の成果を学生自身に自己評価してもらう質問項目を加えまし た。2020年度は急遽、新型コロナウィルス感染症拡大防止対策として WEB 形式(Course Power)でアンケートを実施するため、質問項 目を少なくしましたが、却って授業の改善点が見えにくくなるといった反省点がございました。そこで、2021年度は遠隔授業が今後も残っ ていくという前提で再度、質問項目を見直し、自由記述を含めて10項目としました。以下の表に旧質問項目との対応表をお示しします。旧ア ンケートでは質問項目が比較的近いものを対応させておりますが、完全に同じものではないことはご承知おきください。また、自由記述(Q10) を除く質問項目(Q1~Q9)に対する回答は従来通り6段階からの選択式としておりますが、学生が選択しやすいように具体例を付けるな どの工夫も行っております。

表1 2021年度の質問項目と旧質問項目の対応表

	2021 年度	2020 年度	2010 年度	~ 201	18 年度
	2021 中皮	2020 千皮	2019 平反	講義	演習・実験
Q1.	【学修時間】あなたは、この授業の学修を 1 週間で平均どの程度しましたか?ただし、この学修には教室等で授業を受けている時間や試験の準備に使った時間も含みます。	Q1	Q1	Q3	Q5
Q2.	【学修意欲】あなたは、この授業の到達目標を意識し、目標達成に向けて意欲的に学修に取り組みましたか?	Q2	Q2	Q2 · Q4	Q4
Q3.	【授業の技術・聴覚情報】教員の教室や配信動画における話し方は明瞭で、聞き取りやすかったですか?	Q3	Q3	Q8	Q8 · Q12
Q4.	【授業の技術・視覚情報】板書、パワーポイント、配付資料、動画など、教員が独自に用意した視覚的な資料は分かりやすかったですか?	Q3	Q4	Q9 · Q11	Q11 · Q12
Q 5 .	【理解度の把握】教員は、アンケート、小テスト、課題などを用いたり、質問を投げかけたりすることによって、学生の理解度を把握するように務めていましたか?	-	Q5	Q13	Q13
Q6.	【フィードバックの有無】教員から、あなたの学修に対する適切な評価や指導はありましたか?	-	-	-	Q9 · Q10
Q7.	【アクティブ・ラーニング】自分の考えや疑問を発信する機会はありましたか?	-	Q6	Q12	-
Q8.	【パフォーマンスの変化】この授業を通して、新しい知識や技能、態度が身に付いたと感じますか?	Q4	Q7	-	-
Q9.	【満足度】総合的にみて、この授業に満足しましたか?	Q5	Q8	Q16	Q15
Q10.	【自由記述】この授業で良かった点、あるいは改善して欲しい点があれば具体的に記載してください。	Q6	Q9 · Q10	Q17 · Q18	Q16 · Q17

<回答者数および回収率>

2020年度から WEB 形式でアンケートを実施し、回収率の低下が懸念されておりましたが、2020年度前期は約70%、後期は約63%と比 較的高い値でした。2021年度から調査対象を原則、全科目へと拡大して(受講生が少ない旧カリなどの授業を除く)、アンケートを実施いた

ご承知のように、複数教員が関わる授業には、授業担当者が順番に入れ替わっていくオムニバス形式の授業と、チュートリアルや卒業研究 のように学生をグループに分け、各グループに1名の教員がついて指導を行う形の授業があります。学生側からすると、前者(オムニバス形 式)では教員毎に複数回アンケートに回答しなければなりませんが、後者(クラス分け形式)では1回だけのアンケートとなります。全ての 複数教員が関わる授業についてどちらの形式なのかを把握することは不可能でしたので、1回でもアンケートに回答すれば、回答者としてカ ウントし、それをその授業の履修者で除する形で回収率を算出しました。例えば、表2-1の教員 A、B、C の 3 名によるオム二バス形式の授業 ですと、1回でもアンケートに回答すれば回答者としてカウントしますので、回答者は学生a、b、c の3名となり、履修者数は4名ですので アンケート回収率は75%というように計算いたしました。延べでカウントすると、6/12=回収率50%となろうかと思いますが、授業形態の 把握が困難でしたので、このような算出方法としております。 表2-1 オムニバス授業における回答数の計算例

受講生満足度調査を実施した授業数、履修者数、回答数、履修者数に対するアン ケートの回収率を授業区分毎に表2-2にお示しします。上述のように計算を行っ ているため回答者数は少なくなっており、反対に、回収率の数値は若干高めに出て いる可能性があることをご承知のうえ、ご覧ください。

	教員 A	教員 B	教員 C	回答
学生 a	0	0	0	あり
学生 b	0	0	×	あり
学生 c	×	×	0	あり
学生 d	×	×	×	なし

表2-2 アンケート実施科目数、回答数と回収率

	授業区分		2021 4	F度前期			2021年	度後期	
	投耒区刀	授業数	履修者数	回答者数	回収率	授業数	履修者数	回答者数	回収率
	講義	76	5,365	2,700	50.3%	60	3,497	1,458	41.7%
スタンダード・	演習	139	5,173	3,207	62.0%	76	2,973	1,231	41.4%
オプション科目	実験・実習	12	707	609	86.1%	5	412	137	33.3%
	小計	227	11,245	6,516	57.9%	141	6,882	2,826	41.1%
	講義	379	16,729	9,572	57.2%	321	13,867	8,129	57.2%
## 00 TV P	演習	84	2,615	1,701	65.0%	111	3,058	1,752	65.0%
専門科目	実験・実習	45	1,831	1,379	75.3%	84	3,848	2,144	75.3%
	小計	508	21,175	12,652	59.7%	516	20,773	12,025	57.9%
	講義	5	139	90	64.7%	5	154	39	25.3%
*******	演習	-	-	-	-	-	-	-	-
教職科目	実験・実習	-	-	-	-	1	6	4	66.7%
	小計	5	139	90	64.7%	6	160	43	26.9%
	講義	460	22,233	12,362	55.6%	386	17,518	9,626	54.9%
WW	演習	223	7,788	4,908	63.0%	187	6,031	2,983	49.5%
授業区分毎の合計	実験・実習	57	2,538	1,988	78.3%	90	4,266	2,285	53.6%
	合計	740	32,559	19,258	59.1%	663	27,815	14,894	53.5%

全科目へと調査科目を拡大いたしましたが、後期53.5%と比較的高い回収率とののます。 経期59.1% に動物のは、 後期53.5%と比較的のは、 一次では、 でいるのでは、 でいるのでは、

ような強制力は働かず、どうしても回収率が低下してしまいます。今回、平均としては50~60%の値になっておりますが、科目間の回収率の差が大きく、同じ学科、学年でも、90%以上の回収率のある科目と非常に低い回収率の科目が混在しております。すなわち、回収率にはアンケート実施時の教員の行動が深く影響していることが推察されます。2022年度より Assessmentor でアンケートが実施されますが、WEB 形式であることに変わりはありません。回収率の高かった先生方に実施時の方法をお伺いし、それを今後の活動に活かしていきたいと考えております。

<回答分布>

次に、表3~5に授業区分毎の設問内容とそれに対する回答数をお示しします。こちらは延べの回答数に基づいて計算しておりますので、合計の回答数が表2-2の値とは異なります。

表3 講義科目の設問と回答数 <共通・専門・教職 (n = 13,952)> <共通・専門・教職 (n = 12,009)>

				20	21 年度前	計算日					2021 6	F度後期			
				20.		リ夫ガ					2021 =	一支仮期			
	設問	6	5	4	3	2	1	平均	6	5	4	3	2	1	平均
		大変そう	思う		まっ	たくそう思	わない	7-2-3	大変そう	思う		まっ	とくそう思	わない	729
		>5.5h	4.5-5.5h	3.5-4.5h	2.5-3.5h	1.5-2.5h	<1.5h		>5.5h	4.5-5.5h	3.5-4.5h	2.5-3.5h	1.5-2.5h	<1.5h	
1. 学生の	Q 1 .【学修時間】	271	244	680	2,539	7,274	2,944	2.20	291	263	744	2,277	6,285	2,149	2.30
自己評価		1.9%	1.7%	4.9%	18.2%	52.1%	21.1%		2.4%	2.2%	6.2%	19.0%	52.3%	17.9%	
A COLIM	O.2.【学校音》】	1,945	5,422	4,753	1,405	315	112	4.50	2,045	4,946	3,809	928	213	68	4.62
	Q 2 . 【学修意欲】	13.9%	38.9%	34.1%	10.1%	2.3%	0.8%	4.50	17.0%	41.2%	31.7%	7.7%	1.8%	0.6%	4.62
		4,595	5,283	2,606	861	287	90		4,271	4,563	2,219	610	201	44	F 00
	Q 3 .【聴覚情報】	33.5%	38.5%	19.0%	6.3%	2.1%	0.7%	4.93	35.9%	38.3%	18.6%	5.1%	1.7%	0.4%	5.00
	0.4 【相崇标和】	2,653	6,190	3,621	962	378	148		2,483	5,317	3,153	713	261	82	4.70
	Q 4 . 【視覚情報】	19.0%	44.4%	26.0%	6.9%	2.7%	1.1%	4.67	20.7%	44.3%	26.3%	5.9%	2.2%	0.7%	4.73
2. 授業内容と		2,463	6,350	3,871	726	389	153		2,470	5,506	3,167	547	247	72	
教員の評価	Q 5 .【理解度の把握】	17.7%	45.5%	27.7%	5.2%	2.8%	1.1%	4.67	20.6%	45.8%	26.4%	4.6%	2.1%	0.6%	4.77
教員の計画	0 C [7 / F/III / 40 = #1]	1,868	5,395	4,351	1,305	679	354		1,959	4,871	3,647	940	439	153	
	Q6.【フィードバックの有無】	13.4%	38.7%	31.2%	9.4%	4.9%	2.5%	4.39	16.3%	40.6%	30.4%	7.8%	3.7%	1.3%	4.54
	0.7 [7/2] (7 = -> #1	1,905	5,239	3,879	1,541	840	548		1,853	4,673	3,516	1,122	520	325	
	Q 7 . 【アクティブ・ラーニング】	13.7%	37.6%	27.8%	11.0%	6.0%	3.9%	4.30	15.4%	38.9%	29.3%	9.3%	4.3%	2.7%	4.44
	00 [18] - 7\ 70#\N	3,376	6,645	3,194	416	228	93		3,084	5,806	2,638	286	139	56	4.04
	Q8.【パフォーマンスの変化】	24.2%	47.6%	22.9%	3.0%	1.6%	0.7%	4.88	25.7%	48.3%	22.0%	2.4%	1.2%	0.5%	4.94
3. 総合評価	0.0 [#日度]	3,092	6,648	3,251	553	287	121		2,863	5,763	2,736	394	183	70	
	Q 9 .【満足度】	22.2%	47.6%	23.3%	4.0%	2.1%	0.9%	4.81	23.8%	48.0%	22.8%	3.3%	1.5%	0.6%	4.88

表4 演習科目の設問と回答数 <共通・専門・教職 (n = 5,445)> <共通・専門・教職 (n = 3,338)>

				20	21 年度前	前期					2021年	度後期			
	設 問	6	5	4	3	2	1	777.4/-	6	5	4	3	2	1	777.45
		大変そう	思う		まっ	たくそう思	わない	平均	大変そう	思う		まっ	たくそう思	わない	平均
		>5.5h	4.5-5.5h	3.5-4.5h	2.5-3.5h	1.5-2.5h	<1.5h		>5.5h	4.5-5.5h	3.5-4.5h	2.5-3.5h	1.5-2.5h	<1.5h	
1. 学生の	Q 1 .【学修時間】	132	119	350	1,073	2,554	1,217	2.26	106	102	304	734	1,586	506	2.47
自己評価		2.4%	2.2%	6.4%	19.7%	46.9%	22.4%		3.2%	3.1%	9.1%	22.0%	47.5%	15.2%	
HOM!	Q 2 . 【学修意欲】	828	2,206	1,718	547	99	47	4.55	672	1,386	932	273	56	19	4.69
	Q 2.1子廖志欣1	15.2%	40.5%	31.6%	10.0%	1.8%	0.9%	4.55	20.1%	41.5%	27.9%	8.2%	1.7%	0.6%	4.03
	Q 3 .【聴覚情報】	1,847	2,105	957	308	92	30	4.98	1,235	1,322	489	154	48	19	5.07
	Q J . [48.92][H+K]	34.6%	39.4%	17.9%	5.8%	1.7%	0.6%	4.90	37.8%	40.5%	15.0%	4.7%	1.5%	0.6%	3.07
	Q 4 .【視覚情報】	1,011	2,550	1,351	355	120	58	4.70	745	1,548	757	191	63	34	4.78
	Q T. [1] . [2] [H-10]	18.6%	46.8%	24.8%	6.5%	2.2%	1.1%	4.70	22.3%	46.4%	22.7%	5.7%	1.9%	1.0%	4.70
2. 授業内容と	Q 5 .【理解度の把握】	986	2,561	1,467	255	124	52	4.71	794	1,560	733	145	72	34	4.83
教員の評価	Q 3. [注册及0万山庄]	18.1%	47.0%	26.9%	4.7%	2.3%	1.0%	4.71	23.8%	46.7%	22.0%	4.3%	2.2%	1.0%	4.03
47.54.00 II III	Q 6 .【フィードバックの有無】	925	2,334	1,547	368	189	82	4 50	720	1,471	828	177	96	46	4.72
	Q 0.124 17(3)33,m2	17.0%	42.9%	28.4%	6.8%	3.5%	1.5%	4.59	21.6%	44.1%	24.8%	5.3%	2.9%	1.4%	4.72
	Q 7 .【アクティブ・ラーニング】	817	2,074	1,589	511	305	149	4 20	761	1,365	760	240	137	75	4.64
	Q7.15 55 45 5 =551	15.0%	38.1%	29.2%	9.4%	5.6%	2.7%	4.39	22.8%	40.9%	22.8%	7.2%	4.1%	2.2%	4.04
	Q8.【パフォーマンスの変化】	1,267	2,517	1,332	175	107	47	1 02	955	1,566	648	99	43	27	4.96
2 WASTE	くし.レベンハ マンへの変化」	23.3%	46.2%	24.5%	3.2%	2.0%	0.9%	4.83	28.6%	46.9%	19.4%	3.0%	1.3%	0.8%	4.90
3. 総合評価	Q 9 .【満足度】	1,189	2,611	1,271	220	106	48	4.01	827	1,672	639	119	50	31	4.90
	ر ۲ . د اسامداید ۱	21.8%	48.0%	23.3%	4.0%	1.9%	0.9%	4.81	24.8%	50.1%	19.1%	3.6%	1.5%	0.9%	4.90



表5 実験・実習科目の設問と回答数 <共通・専門・教職 (n = 2,712)> <共通・専門・教職 (n = 2,840)>

				20	21 年度前	前期					2021年	F度後期			
	設 問	6	5	4	3	2	1	平均	6	5	4	3	2	1	TTT-M-1
		大変そう	思う		まっ	たくそう思	わない	平均	大変そう	思う		まっ	とくそう思	わない	平均
		>5.5h	4.5-5.5h	3.5-4.5h	2.5-3.5h	1.5-2.5h	<1.5h		>5.5h	4.5-5.5h	3.5-4.5h	2.5-3.5h	1.5-2.5h	<1.5h	
1. 学生の	Q 1 .【学修時間】	268	123	278	479	894	670	2.67	481	276	360	610	822	291	3.33
自己評価		9.9%	4.5%	10.3%	17.7%	33.0%	24.7%		16.9%	9.7%	12.7%	21.5%	28.9%	10.2%	
	Q 2 . 【学修意欲】	793	1,183	589	108	25	14	4.95	948	1,232	550	77	21	12	5.05
	Q 2.1子修总成1	29.2%	43.6%	21.7%	4.0%	0.9%	0.5%	4.95	33.4%	43.4%	19.4%	2.7%	0.7%	0.4%	3.03
	Q 3 .【聴覚情報】	1,121	1,041	374	100	33	17	F 14	1,375	972	341	86	30	5	5.27
	Q 3 . [総見旧報]	41.7%	38.8%	13.9%	3.7%	1.2%	0.6%	5.14	48.9%	34.6%	12.1%	3.1%	1.1%	0.2%	3.27
	Q 4 .【視覚情報】	659	1,358	575	78	28	14	4.92	813	1,333	555	86	38	15	4.97
	Q4.16元克用報	24.3%	50.1%	21.2%	2.9%	1.0%	0.5%	4.92	28.6%	46.9%	19.5%	3.0%	1.3%	0.5%	4.57
2. 授業内容と	Q 5 .【理解度の把握】	683	1,263	626	80	39	21	4.89	1,002	1,138	573	81	38	8	5.04
教員の評価	Q 3. [注册及0万山庄]	25.2%	46.6%	23.1%	2.9%	1.4%	0.8%	4.09	35.3%	40.1%	20.2%	2.9%	1.3%	0.3%	3.04
1/3/20/20 Im	Q 6 .【フィードバックの有無】	706	1,329	541	75	42	19	4.93	1,060	1,178	484	70	41	7	5.10
	Q 0.12 1 17 (2 2 3 5 m)(1	26.0%	49.0%	19.9%	2.8%	1.5%	0.7%	4.93	37.3%	41.5%	17.0%	2.5%	1.4%	0.2%	3.10
	Q 7 .【アクティブ・ラーニング】	626	1,214	646	134	65	27	4.78	1,021	1,167	520	93	33	6	5.07
	Q7.15 55 15 5 =551	23.1%	44.8%	23.8%	4.9%	2.4%	1.0%	4.70	36.0%	41.1%	18.3%	3.3%	1.2%	0.2%	3.07
	Q8.【パフォーマンスの変化】	913	1,315	407	46	17	14	5.11	1,273	1,120	386	36	20	5	5.26
0 W 0 577 FT	Q 0.10 (3) (3) (3)	33.7%	48.5%	15.0%	1.7%	0.6%	0.5%	5.11	44.8%	39.4%	13.6%	1.3%	0.7%	0.2%	3.20
3. 総合評価	Q 9 .【満足度】	901	1,336	405	34	20	16	5.11	1,163	1,150	433	55	27	12	5.17
	() . Inspecies 1	33.2%	49.3%	14.9%	1.3%	0.7%	0.6%	5.11	41.0%	40.5%	15.2%	1.9%	1.0%	0.4%	3.1/

実験・実習科目は元々参加型の授業ですので、Q7(アクティブ・ラーニング)が高いのは当然ですが、講義、演習科目よりもQ2(学修意欲)が高く、実際に手を動かすことから意欲的に学修に取り組んでいる様子が窺えます。また、教員が学生一人ひとりを見て適宜、フィードバックを与えているのでしょう。Q5(理解度の把握)やQ6(フィードバックの有無)も高く、それらの総合結果として、Q8(パフォーマンスの変化)、Q9(満足度)も講義、演習科目より高い数値が出ているものと思われます。

<アンケート結果の経年変化>

次に過去4年間のアンケート結果の経時変化を、授業区分毎に表6~8でお示しします。ここで、再度、お詫び申し上げなければならないことがございます。2020年度は Course Power で実施したアンケート結果を先生方にご提出頂き、外部業者に集計を依頼しました。Q2(学修意欲)が低く、Q1(学修時間)が高いという結果となっておりましたが、精査したところ、外部業者にてQ1とQ2の質問項目と集計結果が反対に割り当てられていることが判明しました。お詫びして修正いたします。

表6 講義科目における全体平均値の推移(過去4年間分)

設問概要	2021 前期 (n=13952)	2021 後期 (n=12009)	2020	2020 前期 (n=5867)	2020 後期 (n=4973)	2019	2019 前期 (n=8715)	2019後期 (n=7063)	2018	2018 前期 (n=8667)	2018 後期 (n=8325)
Q1.【学修時間】	2.20	2.30	Q 1	2.74	2.61	Q 1	2.75	2.71	Q 3	2.92	2.91
Q 2 .【学修意欲】	4.50	4.62	Q 2	4.35	4.62	Q 2	4.43	4.36	Q 2	5.21	5.19
Q 3 .【聴覚情報】	4.93	5.00	03	4.39	4.50	Q 3	4.86	4.77	Q 8	5.15	5.16
Q4.【視覚情報】	4.67	4.73	Q 3	7.59	7.50	Q 4	4.91	4.82	Q11	5.14	5.19
Q 5 .【理解度の把握】	4.67	4.77	-	-	-	Q 5	4.79	4.76	Q13	5.14	5.19
Q6.【フィードバックの有無】	4.39	4.54	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q 7 .【アクティブ・ラーニング】	4.30	4.44	-	-	-	Q 6	4.26	4.17	Q12	4.82	4.88
Q8.【パフォーマンスの変化】	4.88	4.94	Q 4	4.69	4.72	Q 7	4.97	4.91	-	-	-
Q 9 .【満足度】	4.81	4.88	Q 5	4.86	4.83	Q 8	5.06	4.98	Q16	5.34	5.33

表7 演習科目における全体平均値の推移(過去4年間分)

Et Maria (Cost) O		JIL 17 (.		1 103/3/							
設問概要	2021 前期 (n=5445)	2021 後期 (n=3338)	2020	2020 前期 (n=849)	2020 後期 (n=912)	2019	2019 前期 (n=1307)	2019 後期 (n=1056)	2018	2018 前期 (n=888)	2018 後期 (n=1032)
Q 1 .【学修時間】	2.26	2.47	Q 1	3.69	3.03	Q 1	3.70	3.14	Q 5	3.34	3.16
Q 2.【学修意欲】	4.55	4.69	Q 2	4.26	4.92	Q 2	4.88	4.66	Q 4	5.33	5.35
Q 3 .【聴覚情報】	4.98	5.07	0 3	4.60	4.90	Q 3	5.17	4.94	Q 8	5.18	5.20
Q4.【視覚情報】	4.70	4.78	QJ	4.00	4.50	Q 4	5.20	4.94	Q11	5.26	5.20
Q 5 .【理解度の把握】	4.71	4.83	-	-	-	Q 5	5.10	4.94	Q13	5.22	5.34
Q6.【フィードバックの有無】	4.59	4.72	-	-	-	-	-	-	Q 9	5.20	5.22
Q 7 .【アクティブ・ラーニング】	4.39	4.64	-	-	-	Q 6	4.85	4.92	-	-	-
Q8.【パフォーマンスの変化】	4.83	4.96	Q 4	4.84	5.00	Q 7	5.30	5.16	-	-	-
Q 9 .【満足度】	4.81	4.90	Q 5	5.04	5.19	Q 8	5.36	5.21	Q15	5.31	5.27

表8 実験・実習科目における全体平均値の推移(過去4年間分)

LO MON MAINTAINE	317 911	1 . 71	111/	(~	3/3/						
設問概要	2021 前期 (n=2712)	2021 後期 (n=2840)	2020	2020 前期 (n=240)	2020 後期 (n=261)	2019	2019 前期 (n=333)	2019 後期 (n=730)	2018	2018 前期 (n=346)	2018 後期 (n=1088)
Q 1 .【学修時間】	2.67	3.33	Q 1	3.61	3.00	Q 1	3.40	3.65	Q 5	3.68	3.58
Q 2 .【学修意欲】	4.95	5.05	Q 2	5.30	5.06	Q 2	4.76	5.02	Q 4	5.52	5.53
Q 3 .【聴覚情報】	5.14	5.27	03	4.71	4.87	Q 3	4.96	5.27	Q 8	5.30	5.49
Q4.【視覚情報】	4.92	4.97	Q J	7.71	4.07	Q 4	4.87	5.18	Q11	5.25	5.41
Q 5 .【理解度の把握】	4.89	5.04	-	-	-	Q 5	4.96	5.25	Q13	5.44	5.58
Q6.【フィードバックの有無】	4.93	5.10	-	-	-	-	-	-	Q 9	5.36	5.48
Q 7 .【アクティブ・ラーニング】	4.78	5.07	-	-	_	Q 6	5.23	5.35	-	_	_
Q8.【パフォーマンスの変化】	5.11	5.26	Q 4	5.40	5.19	Q 7	5.24	5.36	-	-	-
Q 9 .【満足度】	5.11	5.17	Q 5	5.50	5.31	Q 8	5.20	5.41	Q15	5.47	5.60

外部業者での取り違えがあったため、2020年度は遠隔授業の実施によって学修意欲が低下していると判断しましたが、学修意欲はそれほど変わっていないというのが正しいようです。学修時間については後述いたします。それ以外の大きな変化としては、Q3(聴覚情報)とQ4(視覚情報)があげられます。2020年度は急遽、慣れない遠隔授業を実施せざるを得ず、満足のいく授業を展開できなかった先生方も多かったのではないでしょうか。2021年度はその苦い経験を活かし、また、対面授業も一部で復活したことで、より分かりやすい授業を工夫されたのだと思われます。Q3(聴覚情報)とQ4(視覚情報)が前年度に比べて大きく改善しております。

<学修時間>

次に、学修時間の推定値の推移(過去4年間分)を表9にお示しします。学修時間に関する設問は、2019年度までは授業外の学修時間を回答してもらっており、回答1:0時間、2:0.5時間、3:1.5時間、4:2.5時間、5:3.5時間、6:4.5時間と仮定して平均値を算出しました。2020年度は遠隔授業が実施されたため、トータルの学修時間を回答してもらっており、回答1:0.5時間、2:1.5時間、3:2.5時間、4:3.5時間、5:4.5時間、6:5.5時間と仮定しております。2021年度は対面と遠隔が併用された授業が実施されたため、トータルの学修時間を回答して

もらっており、回答1:1時間、2:2時間、3:3時間、4:4時間、5:5時間、6:6時間として学修時間を推定しました。2020年度以降は、トータルの学修時間ですから、それ以前よりも長くなっているのは当然ですが、

プラス1時間程度にとどまっております。

表9 学修時間の推定値(単位:時間、過去4年間)

	2021 前期	2021 後期	2020 前期	2020 後期	2019 前期	2019 後期	2018 前期	2018後期
		├ ─	タル			授業外	学修	
講義	2.20	2.30	2.24	2.11	1.31	1.28	1.48	1.48
演習	2.26	2.47	3.19	2.53	2.23	1.68	1.88	1.73
実験・実習	2.67	3.33	3.11	2.50	1.94	2.16	2.20	2.10

次に、アンケートQ1で「選択肢1(授業外学修を全くしていない)」と回答した学生、および「選択肢2(授業外学修1時間弱)」と回答した学生の割合の推移を表10にお示しします。授業時間以外は全く学修していない(選択肢1)、と回答した学生が、2021年度はいずれの授業区分でも2割前後おり、それ以前に比べて急増しています。授業外学修が1時間未満(選択肢2)の学生も、講義、演習科目で半数近くいます。これは調査対象科目を全科目へと拡大した影響があると考えています。自分が担当している授業の中から、1つ選んでアンケートを実施する場合、どうしても良い結果が得られそうな、自信のある授業を展開している科目を選びたくなります。つまり、2020年度までの選択式で行っていたアンケートは「見たいものだけ見ていた」というバイアスが掛かった状態だったのかもしれません。今後も全科目調査が続けば、学生の真の姿が見えてくると思われます。いずれにせよ、授業時間以外は全く学修していない学生が2割もいるという状況は、非常に大きな問題です。

表10 授業外学修が1時間未満の学生の割合(過去4年間)

	授業外学修	2021 前期	2021 後期	2020 前期	2020 後期	2019 前期	2019 後期	2018 前期	2018 後期
=# **	0 h	21.1%	17.9%	10.6%	12.3%	11.3%	12.8%	12.2%	13.9%
講義	0-1 h	52.1%	52.3%	41.0%	41.7%	38.3%	38.0%	33.0%	32.1%
V== 77	0 h	22.4%	15.2%	8.0%	9.2%	7.3%	9.4%	8.9%	13.0%
演習	0-1 h	46.9%	47.5%	22.7%	32.0%	20.4%	31.9%	22.9%	27.1%
CHA CHIN	0 h	24.7%	10.2%	2.9%	11.9%	7.5%	2.3%	4.1%	4.1%
実験・実習	0-1 h	33.0%	28.9%	18.8%	33.7%	24.3%	17.4%	18.0%	21.5%

先生方もご承知のことと思いますが、45時間程度の学修時間を要する内容で1単位です。1単位の講義、演習科目なら90分の授業15回と毎週1時間程度の自己学修でよいのですが、2単位の講義、演習科目では、毎週4時間程度の自己学修を課さなければなりません。ご自身が担当されている授業の単位数から、どの程度の自己学修時間を必要とするかをご判断頂き、自己学修を前提とした授業を設計して頂きたくお願いいたします。また、授業外学修時間が長くなると、自由記述で不満を述べる学生が多くなりますので、学生自身も単位数と学修時間の関係をあまり認識していないと思われます。ガイダンス等で単位制度の考え方と標準的な自己学修時間について繰り返し説明する必要もあろうかと感じております。

gord: Lingue grade Lingue grade Lingue

<総合評価と学修態度および教授技量の関係>

総合評価(Q8、Q9)と学生の学修態度(Q1、Q2)や教授技量(Q3~Q7)の関係をお示しします。授業区分毎に分けると、実験・実習では Q8、Q9の質問項目で低い数値をつけた学生が少なく、比較が出来ないため、全授業区分における結果を示しております。

表11および13より、パフォーマンスの変化が小さい群(Q8(2・1))では、授業時間以外は学修していない(Q1の選択肢1)と回答した学生が約半数おります。勉強していませんので、当然、パフォーマンスがほとんど変化しないという結果に繋がっているものと思われます。



表11 総合評価(パフォーマンスの変化)と学生の学修態度および教授技量の関係(2021年度前期)

05000	XI XI X	(重り)対抗(2021)	+152 6	2	4	3	2	1		
	計								平均	6·5群 との差
		O.1 【学校吐眼】	大変そ				そう思		2 20	
Q8(6·5)		Q1.【学修時間】	570		1,054					
		Q2.【学修意欲】	3,404	7,841	3,925	719	104	40	4.85	
変パ化フ		Q3.【聴覚情報】	7,112	6,611	1,558	412	98	7	5.28	
がオ	16,033	Q4.【視覚情報】	4,124	8,778	2,532	440	119	40	5.01	
いン		Q5.【理解度の把握】	3,964	8,864	2,681	351	137	36	5.00	
群スの		Q6.【フィードバックの有無】	3,383	8,162	3,231	765	346	146	4.81	
		Q7.【アクティブ・ラーニング】	3,215	7,729	3,199	1,072	526	292	4.70	
		Q1.【学修時間】	92	54	239	798	2,727	1,660	2.03	-0.35
		Q2.【学修意欲】	142	923	3,003	1,204	243	55	3.88	-0.96
		Q3.【聴覚情報】	440	1,750	2,274	759	204	40	4.25	-1.03
Q8(4·3)	5,570	Q4.【視覚情報】	184	1,281	2,917	850	279	59	4.01	-1.00
		Q5.【理解度の把握】	156	1,254	3,189	640	261	70	4.03	-0.97
		Q6.【フィードバックの有無】	107	870	3,127	894	422	150	3.80	-1.01
		Q7.【アクティブ・ラーニング】	125	761	2,850	1,052	514	268	3.66	-1.03
		Q1.【学修時間】	9	3	15	47	166	266	1.72	-0.66
Q8(2·1)		Q2.【学修意欲】	20	47	132	137	92	78	3.08	-1.77
変パ 化フ		Q3.【聴覚情報】	11	68	105	98	110	90	2.97	-2.31
がオ 小上	506	Q4.【視覚情報】	15	39	98	105	128	121	2.71	-2.31
いン		Q5.【理解度の把握】	12	56	94	70	154	120	2.70	-2.30
群ス の		Q6.【フィードバックの有無】	9	26	81	89	142	159	2.41	-2.41
		Q7.【アクティブ・ラーニング】	8	37	65	62	170	164	2.34	-2.36

表13 総合評価(パフォーマンスの変化)と学生の学修態度 および教授技量の関係(2021年度後期)

	計		6	5	4	3	2	1	平均	6•5群
	ē1		大変そ	う思う	ŧ	うたく	ったくそう思わない			との差
Q8(6·5) 変パ 化フ		Q1.【学修時間】	800	568	1,165	2,876	6,557	1,838	2.60	
		Q2.【学修意欲】	3,545	6,763	2,972	428	71	25	4.96	
		Q3.【聴覚情報】	6,576	5,499	1,184	308	73	7	5.33	
がオー大十	13,804	Q4.【視覚情報】	3,938	7,290	2,129	335	91	21	5.06	
きマ いス の		Q5.【理解度の把握】	4,151	7,302	1,985	255	92	19	5.09	
		Q6.【フィードバックの有無】	3,666	6,916	2,398	535	237	52	4.95	
		Q7.【アクティブ・ラーニング】	3,551	6,634	2,435	687	330	167	4.86	
		Q1.【学修時間】	70	70	234	716	2,037	966	2.17	-0.43
	4,093	Q2.【学修意欲】	103	773	2,255	781	156	25	3.95	-1.00
		Q3.【聴覚情報】	298	1,325	1,805	479	133	18	4.28	-1.06
Q8(4·3)		Q4.【視覚情報】	97	888	2,287	610	175	36	4.00	-1.05
		Q5.【理解度の把握】	108	867	2,448	472	164	34	4.04	-1.05
		Q6.【フィードバックの有無】	69	591	2,522	607	234	70	3.86	-1.08
		Q7.【アクティブ・ラーニング】	79	556	2,319	725	278	136	3.76	-1.10
		Q1.【学修時間】	8	3	9	29	99	142	1.81	-0.79
Q8(2·1)		Q2.【学修意欲】	17	28	64	69	63	49	3.03	-1.92
変化が小さい。		Q3.【聴覚情報】	7	33	60	63	73	43	2.96	-2.37
	290	Q4.【視覚情報】	6	20	49	45	96	74	2.53	-2.53
		Q5.【理解度の把握】	7	35	40	46	101	61	2.68	-2.41
群ス の		Q6.【フィードバックの有無】	4	13	39	45	105	84	2.32	-2.62
		Q7.【アクティブ・ラーニング】	5	15	42	43	82	103	2.31	-2.55

表12 総合評価(満足度)と学生の学修態度および教授技量 の関係(2021年度前期)

	計	1 1/2(1)3/(1)	6	5	4	3	2	1	平均	6•5群
	ā1		大変そ	う思う	ā	ったく	そう思わない		714	6·5群 との差
		Q1.【学修時間】	540	402	1,020	3,122	7,747	2,946	2.35	
Q9(6·5)		Q2.【学修意欲】	3,384	7,746	3,824	684	95	44	4.86	
満足		Q3.【聴覚情報】	7,225	6,619	1,339	302	53	7	5.33	
満足度の高い群	15,777	Q4.【視覚情報】	4,216	8,865	2,330	280	59	27	5.07	
高い		Q5.【理解度の把握】	4,008	8,742	2,600	285	112	30	5.02	
群		Q6.【フィードバックの有無】	3,418	8,118	3,206	630	291	114	4.85	
		Q7.【アクティブ・ラーニング】	3,207	7,539	3,243	1,025	495	268	4.71	
		Q1.【学修時間】	111	75	261	889	2,778	1,620	2.08	-0.27
	5,734	Q2.【学修意欲】	151	1,003	3,085	1,216	230	49	3.91	-0.95
		Q3.【聴覚情報】	327	1,746	2,500	831	196	25	4.20	-1.13
Q9(4·3)		Q4.【視覚情報】	99	1,205	3,124	982	283	41	3.95	-1.07
		Q5.【理解度の把握】	114	1,372	3,255	687	256	50	4.04	-0.98
		Q6.【フィードバックの有無】	74	914	3,149	1,025	420	152	3.78	-1.07
		Q7.【アクティブ・ラーニング】	131	939	2,784	1,091	509	280	3.70	-1.01
		Q1.【学修時間】	20	9	27	80	197	265	1.96	-0.39
Q9(2·1)		Q2.【学修意欲】	31	62	151	160	114	80	3.16	-1.70
満足		Q3.【聴覚情報】	11	64	98	136	163	105	2.80	-2.53
満足度の低い群	598	Q4.【視覚情報】	8	28	93	133	184	152	2.47	-2.55
低い		Q5.【理解度の把握】	10	60	109	89	184	146	2.64	-2.39
群		Q6.【フィードバックの有無】	7	26	84	93	199	189	2.30	-2.55
		Q7.【アクティブ・ラーニング】	10	49	87	70	206	176	2.43	-2.28

表14 総合評価(満足度)と学生の学修態度および教授技量の 関係(2021年度後期)

	ZUZI+/反伐州/										
	計		6	5	4	3	2	1	平均	6・5群 との差	
	āl		大変そう思う ま			ったく	そう思	そう思わない		との差	
Q9(6·5) 変化が大きい群		Q1.【学修時間】	756	553	1,127	2,790	6,382	1,830	2.59		
		Q2.【学修意欲】	3,506	6,614	2,854	370	69	25	4.97		
		Q3.【聴覚情報】	6,592	5,482	1,002	188	24	5	5.39		
	13,438	Q4.【視覚情報】	3,957	7,319	1,900	205	41	16	5.11		
		Q5.【理解度の把握】	4,133	7,178	1,864	195	55	13	5.12		
		Q6.【フィードバックの有無】	3,653	6,835	2,307	426	176	41	4.99		
		Q7.【アクティブ・ラーニング】	3,524	6,490	2,368	631	282	143	4.89		
Q9(4·3)	4,376	Q1.【学修時間】	104	82	263	788	2,166	973	2.23	-0.36	
		Q2.【学修意欲】	134	890	2,346	817	162	27	3.99	-0.99	
		Q3.【聴覚情報】	280	1,348	1,962	575	150	14	4.23	-1.16	
		Q4.【視覚情報】	79	862	2,517	715	183	20	3.97	-1.15	
		Q5.【理解度の把握】	128	987	2,541	510	182	28	4.07	-1.06	
		Q6.【フィードバックの有無】	84	670	2,601	699	262	60	3.87	-1.11	
		Q7.【アクティブ・ラーニング】	110	688	2,360	770	305	143	3.79	-1.09	
		Q1.【学修時間】	18	6	18	43	145	143	2.07	-0.52	
Q9(2·1)		Q2.【学修意欲】	25	60	91	91	59	47	3.36	-1.61	
変化が小さい群パフォーマンスの		Q3.【聴覚情報】	9	27	85	87	105	49	2.90	-2.49	
	373	Q4.【視覚情報】	5	17	48	70	138	95	2.38	-2.74	
		Q5.【理解度の把握】	5	39	68	68	120	73	2.72	-2.41	
		Q6.【フィードバックの有無】	2	15	51	62	138	105	2.30	-2.68	
		Q7.【アクティブ・ラーニング】	1	27	68	54	103	120	2.42	-2.47	

表11~14は多くの数値が並んでいますので、比較しにくいと思われます。そこで、平均値だけを一部抜粋して作成したのが表15となります。

学修時間(Q1)を見てみますと、パフォーマンスの変化の大きい群と小さい群の差(前期0.66、後期0.79)に対して、満足度の高い群と低い群の差は前期0.39、後期0.52となっており、差が小さくなっております。パフォーマンスの変化は学修の成果ですので、相応の時間を学修に費やす必要があり、学修時間が影響します。一方、満足度に関しては、少し偏見があろうかと思いますが、「ほとんど勉強しなくても単位が取れた。だから満足だ。」と考える学生がいるのかもしれません。

表15 パフォーマンスの変化と満足度に与える因子

	2021 年度前期							2021 年度後期						
	パフォ	ーマンス	の変化		満足度 パフォーマンスの			の変化	変化 満足度					
	大きい	小さい	差	高い	低い	差	大きい	小さい	差	高い	低い	差		
Q1.【学修時間】	2.38	1.72	-0.66	2.35	1.96	-0.39	2.60	1.81	-0.79	2.59	2.07	-0.52		
Q2.【学修意欲】	4.85	3.08	-1.77	4.86	3.16	-1.70	4.96	3.03	-1.92	4.97	3.36	-1.61		
Q3.【聴覚情報】	5.28	2.97	-2.31	5.33	2.80	-2.53	5.33	2.96	-2.37	5.39	2.90	-2.49		
Q4.【視覚情報】	5.01	2.71	-2.31	5.07	2.47	-2.59	5.06	2.53	-2.53	5.11	2.38	-2.73		
Q5.【理解度の把握】	5.00	2.70	-2.30	5.02	2.64	-2.39	5.09	2.68	-2.41	5.12	2.72	-2.41		
Q6.【フィードバックの有無】	4.81	2.41	-2.41	4.85	2.30	-2.55	4.95	2.32	-2.62	4.99	2.30	-2.68		
Q7. 【アクティブ・ラーニング】	4.70	2.34	-2.36	4.71	2.43	-2.28	4.86	2.31	-2.55	4.89	2.42	-2.47		

教授技量(Q3~Q7)は、パフォーマンスの変化、満足度いずれにも大きく関係しております。視覚情報(Q3)と聴覚情報(Q4)は、満足度における差の方が、パフォーマンスの変化における差よりもごく僅かですが0.2ポイント程度大きくなっておりますので、より満足度に与える影響が大きい、と考えられます。一方、僅かな差ですが、パフォーマンスの変化に最も影響がありそうなのが、フィードバックの有無(Q6)です。学生にやらせてみて、間違っていたらそれを修正する、ということを繰り返すことによって、学生がより良いパフォーマンスを発揮できるようになる、ということだと思われます。少し意外だったのが、Q7です。アクティブ・ラーニングとタイトルを付けていますが、質問事項は「自分の考えや疑問を発信する機会はありましたか?」というものです。授業中に当てて答えを求めると嫌がる学生が多いのですが、アンケート結果はパフォーマンスの変化、満足度ともに発言の機会を与えることも重要であることを示しています。自分の考えや意見は持っている。しかし、それをみんなの前で発言するのは恥ずかしい、ということなのかもしれません。こういったことを考慮して、学生の考えや意見をうまく引き出す手法が必要と思われます。

アンケートには自由記述もございますので、教授技量(Q3~Q7)に現れてこないような項目について改善点を指摘してくれる場合もあろうかと思います。個人的な経験ですが、学生は自分が不公平に扱われていると感じると、自由記述にコメントを記載することが多いようです。授業の技術面だけでなく、学生とどう向き合うのかもとても重要なのだと思われます。

<まとめ>

2021年度は Microsoft Forms を用いて受講生満足度調査を実施いたしました。授業コード、授業名を学生自身に入力させることとしたため、帰属不明のアンケートデータが生じるなどの問題が発生しました。2022年度からは Assessmentor を用いてアンケートを実施しますので、この点は解消されると思いますが、 Assessmentor の仕様上、1科目で1回だけのアンケートとなりますので、複数教員が関与するオムニバス形式の授業などでは改善点が見えにくくなるかもしれません。

また、2021年度から調査対象科目を全科目へと拡大しました。手間が掛かるためにご不満に思われる先生方もいらっしゃると思いますが、今までは見えてこなかった部分も見えてくるようになり、大学全体としてより正しい方向に向かって改善できるようになるものと信じております。

アンケートの結果から、2年間の遠隔授業での経験を経て、遠隔授業においても徐々に分かりやすい授業を展開できるようになってきていると思われます。遠隔授業は今後も残っていくと思われますので、対面授業と遠隔授業のそれぞれの利点を組み合わせ、いかに効果的な学びを提供できるかが問われるようになってくるでしょう。

授業アンケート等により学生の意見を集め、その意見を参考にしながら授業の改善を進めていくことはとても重要です。また、授業を効果的に展開していくため、FD 委員会ではこの受講生満足度調査(授業アンケート)と併せて、授業参観ウィーク(教員相互の授業参観)、講演会、教授技術やコミュニケーション能力を磨く参加型研修会(ワークショップ)など様々なプログラムを用意しております。教職員一丸となって教育方法を深化させるべく、今後とも FD 活動への積極的な参加をお願い申し上げます。

